

坂祝町青少年育成町民の集い

元気なさかほぎ発表会

6月13日(土) 中央公民館ホールにおいて、「坂祝町青少年育成町民の集い～元気なさかほぎ発表会～」が開催されました。今年度は、青少年健全育成功労者として安西達彦さん、森あゆみさんの2名の青少年育成推進員が表彰されました。(※写真は安西達彦さん) 表彰された皆様は、長きにわたり青少年育成推進員や町民会議部会員を務め、青少年健全育成に日々尽力されました。積極的に取り組まれたその功績は極めて顕著であり、坂祝町青少年育成町民会議の活性化に大きく貢献されました。



青少年の主張発表では、小学校から1名、中学校から2名、中日本自動車短期大学から2名の代表者が主張作文を発表しました。自身の考えをしっかりと持ち、堂々と主張する5人の姿に多くの来場者が感銘を受けました。

また、ジュニアリーダー3名による司会も会場の雰囲気をもくしてくれました。

青少年主張発表

『地球温暖化の対策について』

小学校 6年生
深谷 美月さん



青少年主張発表

『自信をもっていること』

中学校 3年生
中村 恋絆さん



青少年主張発表

『あなたのように』

中学校 3年生
渡邊 透さん



青少年主張発表

『夢や成功以上に大切なもの』

中日本自動車短期大学生
カイン・カンさん



青少年主張発表

『監視カメラのある社会』

中日本自動車短期大学生
タンイキさん



● 司会のジュニアリーダー
古川 紫月さん
丸井 穂香さん
渡邊 瞳さん



主張発表の後は、大八まちづくり協議会 事務局長 山本真紀さんによる特別講演会が行われました。冒頭のアイスブレイクで会場の緊張も解け、お隣の席の方と楽しく交流を深めました。また、子どもたちが主体で活動している事例に触れ、「自主性」と「主体性」の違いを学ぶ貴重な機会となりました。「子どもは今の担い手」という言葉に、来場者は青少年育成への想いを深め、次世代の可能性について考える有意義な一日となりました。



問い合わせ先：教育課 社会教育係 ☎66-2409

「地球温暖化の対策について」

小学校 6年 深谷 美月



暑すぎる…。

私は毎日一時間かけて学校に通っています。すごく気温が上がり、そんな中でも暑さに負けずに歩いています。5月なのに30度を超え、三日間も真夏日が続きました。インターネットで調べてみると、去年の日本の最高気温は群馬県で41.8度を記録し、2050年には最高気温が45度に達すると言われています。みなさんは、このまま気温が上がり、今よりもっと暑くなってしまうと、どうなると思いますか。今、世界では、地球温暖化によって気温が上がることで多くの問題が出てきています。例を出すと、暑くて植物が枯れてしまったり、海が蒸発してしまったり、私たち人間や動物たちが、より良い生活がしづらくなって困ってしまうことなどです。

これらのことが起こらないようにするために、私からいくつか提案します。

一つ目は、海洋汚染をなくすことです。今、プラスチックやビニールぶくろなどの大量のゴミが海に捨てられています。回収したプラスチックゴミを燃やすと二酸化炭素が放出されます。かめがクラゲと間ちがえてビニールぶくろを食べてしまったり、海の汚染により、貝などが成長せず、私たちが食べることができなくなったりします。なので、これ以上海を汚してほしくないと思いました。

二つ目は、日々の生活から、二酸化炭素を出さないようにするということです。そのために、ガソリン車や電気自動車ではなく、水素自動車を使い、なるべく二酸化炭素を出さないようにするのがいいと思いました。ですが、デメリットがあります。それは、ねだんが高いということです。水素自動車を買うだけでも高いのですが、燃料の水素がなくなってから、水素タンクを買わなければならない、これもまた、ねだんが高くなります。環境にはやさしいですが、なかなか買うことができません。できるだけ早く物価高がおさまり、だれでも買うことができれば少しでも地球温暖化が進まないようにと思いました。

三つ目は、一つ目、二つ目のようなとても大変なことではなく、今の私たちでもできることです。まずは、買い物へ行く時は、エコバッグを持っていくことです。ビニールぶくろを店でもらわずにすむし、家に帰ったら捨てるということもなくなります。ビニールぶくろは便利ですが、それを作ることで、燃やすことで二酸化炭素が出てしまうので、できるだけエコバッグを持ち歩いているといいと思います。

私たちでも小さなことから、地球温暖化の対策はできると思います。そして、これから先のことを考えると、小さなことでも私たちは取り組まなければならないと思います。

これ以上地球が暑くならず、みんなが平和にすごせる世界がくるのに100年かかるかもしれないけれど、私たちが大人になるまでに、少しでも地球温暖化がおさえられるといいと思います。

みなさんも「地球にやさしく」できること、考えてみませんか。

※原文表記のまま掲載しています。

「夢や成功以上に大切なもの」

中日本自動車短期大学 KHAING KHANT (カイン・カン)



私は子供の頃から大人になったら、「海外へ留学し、一生懸命働いて成功したい」という夢がありました。その夢を追い続けた結果、私は今、日本に来て4年目になりました。

振り返ってみると、かつて思い描いていた夢は少しずつ実現に近づいています。しかし、その一方で、私はどこか満たされない気持ちを抱えていました。夢に近づいているはずなのに、なぜか心の中に空白が残っているような気がしたのです。そう考えたとき、私はあることに気づきました。夢を追いかけることや、成功することばかりに目を向けるあまり、「私はなぜ生きているのか」「私の人生にとって本当に大切なものは何なのか」という問いを忘れていたのです。そして私は、「夢や成功以上に大切なもの」があるのではないかと考えるようになったのです。では、その「大切なもの」とは何でしょうか。

私たちはよく「夢を叶えたい」「お金を稼ぎたい」「社会で成功したい」と言います。もちろん、それは決して悪いことではありません。誰もが幸せになりたいから、努力するのは素晴らしいことです。でも、その夢や成功を追いかけるあまり、もっと重要なものを見失ってしまうことはないでしょうか？

今、世界を見てください。私たちの地球は今、人間の活動によって深刻な環境問題に直面しています。広い森林が伐採され、そこに住んでいた動物たちは姿を消し、異常気象も増えています。また、海には大量のプラスチックごみが流れ込み、多くの海洋生物の命を脅かしています。なので、自然の大切さを知ることは非常に重要なことだと、私は思います。なぜなら、現在の世代、そして未来の世代が、自然の価値を理解せずに成長すれば、自然に対する共感や理解は失われてしまいます。そして、理解していないものを守るということは不可能です。だからこそ、私はみなさんに問いかけたいのです。第二の地球はありません。地球は私たちのものではなく、私たちが地球の一部なのです。だからこそ、私たちが守らなければ、一体誰が守るのでしょうか。もし地球が健康でなくなってしまうたら、私たちの未来もありません。どれほど大きな夢を持っていたとしても、どれほど成功を目指したとしても、その土台となる地球が失われてしまえば、夢は夢のままで終わってしまいます。

一方で、世界のあちこちでも戦争や争いが絶えず、子どもたちが夢を持つことさえできない場所もあります。戦争は遠い国の出来事のように見えても、世界全体の平和や人々の心に深く影響するのです。しかし、私たちはこの現実を知りながらも、毎日の生活に追われ、つい目をそらしてしまいがちです。これほど多くの深刻な問題があるのに、まるで何も起きていないかのように世界が動いていることに、私はとても不安でした。未来は、今の私たち一人ひとりの選択によって変わります。だからこそ、これから私たちに必要なのは、「夢や成功を追いかけること」だけではなく、「平和を大切にする気持ち」、「自然を守る意識」、「人を思いやる心」。それこそが夢や成功以上に大切なものだと思います。私はこれからも夢や成功を追いながらも、人として本当に大切なものを忘れずに生きていきたいと思います。

※原文表記のまま掲載しています。

「監視カメラのある社会」

中日本自動車短期大学 単 逸 麒 (タンイキ)



私が日本に留学してから、夜の道を歩くたびに不安を感じるようになりました。そして、私は周りを見回し、何かを探そうとしていました。自分でも何を探しているのかよく分からなかったのです。その後帰国したとき、無意識に上を見上げ、私は気づきました。

私が日本で探していたのは、「監視カメラ」だったのです。そのとき、私は「監視カメラ」による監視は、人々を安心させることにつながっていると思いました。

私のような考えが、監視カメラの数が少ない国ではかなり異常であるかもしれません。「監視」という言葉は、多くの人に「プライバシーがなくなる」と思われるでしょう。しかし、私は自分の一部のプライバシーよりも、自分の安全を優先して守ることがより重要だと思います。中国では、助け合いは常に良い行いと見られています。しかし、20年前のある判決がもたらした影響は、今でも人々の道徳観に影響を及ぼしています。2006年、彭さんという青年が、偶然道で倒れている老人を見かけ、親切心から手を差し伸べて老人を病院に運びました。しかし、その時、その老人は突然、「彼が私にぶつかってころんでケガをした」と言い出し、彭さんに医療費の補償を求めたのです。当然彭さんはそのことを否定し、医療費を支払うことも拒否しましたが、老人の家族は彭さんを訴えました。それぞれの主張を証明する証拠がない中、裁判は一時的に行き詰まりました。そこで、裁判長は「あなたが老人にぶつかったわけでもないのに、なぜあなたは老人を助けたのか。」この一言が、中国人が今でも他人を助けることに対して恐れを抱く原因となってしまいました。

もし、街にあらゆる出来事を最初から最後まで記録できるカメラがあれば、それで自分の無実を証明できるとしたら、我々はもっと積極的に他人を助けるようになるでしょう。「監視カメラが人々のプライバシーを侵害するという事実は変わらない」と言う人もいるかもしれませんが、それに対して私が言いたいのは、誰かのプライバシーを覗き見しようとする場合、監視カメラでなくても、他の多く手段があります。例えばスマートフォンです。マイク、カメラ、GPS、ウェブサイトの情報が含まれています。自分の日常生活のプライバシーが誰かに利用されていないと自信を持って言えるでしょうか。私たちの安全のために街中にもう少しカメラを設置することの利点は、欠点より数倍多いと私は思います。

夜の道を歩く際に不安を感じないため、事件が発生した際に自分の無実を証明する証拠を持つため、そしてこの社会がより効率的に進められるように、日本も街にもっと多くのカメラを設置したらどうでしょうか。

私は、現代社会において、監視措置は市民が安心して暮らすために必要不可欠であると思います。

※原文表記のまま掲載しています。